

# 全国中国語教育協議会準備会

ニュースレター

第3号

1997年9月9日発行

## 中国語教育協議会がいよいよ正式に発足 第1回全国大会を10月24日に開催

中国語の教育と学習がますます重視されてきた現在、全国の大学・高等学校・専門学校・民間各種教育機関で中国語教育に従事する者が集い、教育者相互の交流を深め、外国語科目としての中国語教育を確立し、その充実をはかるべく、全国中国語教育協議会準備会が昨年の秋に発足した。準備会では、広く意見を求め今後の展開を考えることとして、以来PR・事務局設置・教員セミナーの開催など一定の準備活動をつづけてきたが、いよいよ組織を確立し、発足の主旨に向けて本格的な活動をスタートすることとなり、10月24日に別項掲載の通り、第1回全国大会を開催することになった。

大会では、協議会の正式名称・組織・運営・活動方針について討議し、成案を得ることになるが、正式な会合通知と議案書は10月初旬までに各会員あてに郵送される予定である。

昨秋の集会から、準備会は主として会報を通じ全国の中国語教員に協議会活動への参加を呼びかけてきたが、PR不足は否めず、さらに多数の方々为全国大会に出席して下さるよう期待している。現会員からも関係各位をお誘いいただきたい。なお、会員の資格は全国大会で議せられることになるが、準備会の段階では中国語教育に従事する個人で、事業者や団体は含まれていない。大会当日、受付で新規入会の手続きも扱う予定である。

### 第1回全国大会開催のご案内

全国中国語教育協議会の正式発足にあたり、下記の通り全国大会を開催いたします。改めて10月初旬に通知状・依頼状・議案書・交通案内等をご郵送申し上げますが、万障お繰り合わせの上、ご出席のほどお願い申し上げます。

日時 1997年10月24日(金)

午後2時～4時

場所 東海大学湘南校舎

(交通:小田急線東海大学前下車、

新宿から急行で約1時間)

詳しい交通案内は10月初旬にお送りいたします。

### 準備会事務局のご案内

〒156 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中国文学研究室内

全国中国語教育協議会準備会

郵便振替口座 00120-0-364168

(会費納入・寄付振込にご利用下さい)

なお、お問い合わせ・ご連絡等は、専従事務担当者がおられませんので、お手数でも、すべて郵便でお願いいたします。

☆暫定会費(2,000円)未納の方は

同封の振込用紙でお願いします。

前号会報でご案内をした中国語教員夏季セミナーが去る8月20日(水)から23日(土)までの4日間、日本大学文理学部(東京都世田谷区)会議室を会場として開催された。全国的規模で中国語教員のための研修会を開くのは、史上初といってもよいほど稀で、協議会(準)の初事業として企画された。今回は、中国へ研究留学や研修旅行をしても聴講できない、第一級の中国の先生方にご出馬いただき、別記の通り参加者の好評を博した。孫教授には参加者から事前に提出された課題文(会話、散文、詩)の録音テープを個別に診断していただき、教員自身の発音や朗読の実力向上を試み、今後も実施するように望む声が強かった。

協議会(準)を代表して輿水運営委員から開講式および修了式で発言があり、中国語学習者の増加にともなって、教科書・参考書の出版は花盛り、学力判定テストが次々に名乗りをあげる昨今、教育内容の検討や教員研修等には積極的な取り組みが見られず、このままでは学習者が不満をもらすことも起こり得る。いまこそ中国語教育界は教育方法や内容の質的向上を図らねばならない、とセミナー開催の主旨説明があり、協議会は教員セミナーの開催、中国語教育に関する情報提供、研究誌や資料集の刊行等を、当面の三本柱として活動したい、という希望が述べられた。

今回の中国人講師は、北京大学中文系教授で今年度は姫路獨協大学ご出講中の陸俊明先生、同じく北京大学中文系教授で陸教授夫人の馬真先生、北京語言文化大学から東京外国語大学客員教授としてご出講中の李明先生、東京外国語大学客員教授で音楽家の孫玄齡先生(岩波新書《中国の音楽世界》の著者)、ほかに日本人講師として日本大学教授で東京外国語大学名誉教授の輿水優氏が加わった。本号の特集では、上記中国人講師4氏の講義内容を2人の参加者にまとめていただき、ほかに参加者の感想文をご寄稿いただいた。

【陸俊明教授】(日本学生学习汉语过程中常遇到的语法疑难问题)

セミナー初日の午後、途中に休憩をはさんで計3時間にわたって講義された。あらかじめ主催者から提出してあった数々の問題点のうち陸教授が次のいくつかを選んで行われた。

- 1 方向補語と賓語の位置
- 2 否定疑問文に対する答え方
- 3 “一些”と“一点儿”
- 4 “这是…”と“这个是…”
- 5 “考不上”と“没考上”

いずれのトピックも、用法が複雑であったり、二者間の差が微妙であったりして、日本人に中国語を教える際にうまく説明しにくいところであるが、陸教授は豊富な用例を提示して、これを整然と分類されている。とりわけ、日本人の気がつかないような文型を随所に挙げている点が注目される。陸教授の最近の研究では、まず問題となる文型をすべて列挙し、その後にそれらの間の統語上・意味上の共通点や相違点を分析するというスタイルがしばしばとられており、今回の講義での豊富な用例の提示もその一つと思われる。ただ、陸教授自身も指摘される通り、実際に学習者に教える場合には、分類が多すぎでは消化不良。この点は、文法理論および教授法の双方からさらに検討していく必要がある。

### 【馬真教授】(日本学生在虚词使用方面的问题及其他)

セミナー二日目の午後、陸教授と同じく休憩をはさんで3時間にわたって講義された。これも陸教授と同じく、あらかじめ主催者から提出してあった数々の問題点のうち馬教授が次のいくつかを選んで行われた。

#### 1 助詞“了”                      2 介詞“比”                      3 副詞“都”

いずれのトピックでも、馬教授が専門とする副詞の問題が中心となっており、“了”の問題では“才”との共起について、“比”の問題では程度副詞との共起について、多くの用例を挙げ詳しく解説された。また、おわりに、虚詞の教授法について、次の5つの提言をされた。

①虚詞だけを分離させるのではなく、全体のカリキュラムのなかで虚詞を扱う。

②用法を説明するだけでなく、その語の文法的意味を理解させる。

③複数の語を比較対照して説明すると効果的である。

④学習者のレベルを考慮しつつ、多くの用例を挙げる。

⑤説明を粗くすべきか詳しくすべきかは、学習者のレベルを見て判断する。

なお、時間の制約から、最後の部分は十分にお話を聞けなかったのは残念であった。

(以上 東京外国語大学 針谷壮一)

### 【李明教授】

三日目の午前と午後にまたがって3時間の講義であった。日本人が中国語を学ぶ際に生じる発音面での困難な点について、音声学の専門家として、また長年にわたり北京言語文化大学で外国人に対する中国語教育に従事されてきたご経験から、的確な分析をもとに講義された。声母・韻母・声調・語音変化の順に、それぞれ特徴的な例を挙げて説明され、有気音のできない者にはpの音で理解させる、日本人の発音ではuが口の中に飴玉をしゃぶっているように聞こえる、第二声の習得には第四声+第二声の単語を繰り返し練習することで開始点を十分に下げる、そり舌音は母語としても、子どもが最後に獲得する、といった文法書を読んでいるだけでは得られない内容であった。

### 【孫玄齡教授】

三日目と四日目にまたがって3時間半の講義。音楽家であるだけに、鋭い耳を生かした聞き分けと、文法の先生からは得られないユニークで斬新な解釈による講義であった。三日目は、会話や朗読における「语调」の大切さについての講義で、読み方によって親密な感じにとられたり、粗雑な感じにとられたりすることを説明の後、老北京話調、学生調、幹部調などの実例が集められた録音テープを聞かせて具体的に解説された。四日目は、正しい「语调」で話すための発音・声調・リズム等の問題点についての講義で、eの音は明るく出すこと、暗いと汚く聞こえる、ラジオのニュースを読む場合もただ速いだけではなく、その中にもリズムがあることなどを説明された。その後、参加者があらかじめ提出してあった課題文の録音テープをもとに、それぞれの朗読上の問題点、たとえば声調は正確だが枠の中だけで読んでいる、冷たい感じ、優しい口調だが正式の場での挨拶には向かない、などの指摘が個別にあり、発音の細かい注意を含め詳細な評語を添えてテープを返却。

(以上 東京外国語大学 島田亜実)

## 第1回中国語教員夏季セミナーに参加して

明海大学 加藤晴子

この度第1回セミナーに参加させていただきました。90分の講義を朝から夕方まで毎日聴講するというのは久しぶりのことで、正直なところ、申し込むのにもかなりの覚悟を必要としました。しかし、いざ始めてみると、講師の先生方の簡潔でありながら、多くの資料と研究成果の盛り込まれた密度の濃い講義に引き込まれ、時間の経つのが実に早く感じられました。日頃の疑問に解答を与えられただけでなく、見過ごしていた問題にも気づかせられる講義内容でした。また、普段の自分の授業を省みて、

先生方の講義に対する姿勢にも学ぶことの多い4日間でした。

今回は参加者同士の交流の機会がほとんどありませんでしたが、その分、ゆっくりと講師の先生方のお話を伺うことができたと思います。少人数ということもあり、和やかな雰囲気の中で勉強する機会を持つことができました。

講師の先生方、そして、このような機会をつくってくださった主催者の方々、どうもありがとうございました。

### セミナー参加者のアンケート調査から

第1回セミナーは、参加申し込み26名、辞退2名、欠席1名で、出席者は23名であった。冷房やその他の設備の関係で30名の枠を設けたが、実際には定員に満たず、参加者から「すばらしい講師陣と講義の内容からしても、こんなに少数ではもったいない」という声があった。開催の時期・期間・会場については、おおむね全員が適当と回答したが、1週間の開催を望む声も3名あった。事務局で現在企画中の「平日夜間」や、「土曜午後」の連続講座については、勤務や交通の点から後者を望む声が強かった。年間計画の提示希望もあった。セミナーのカリキュラム・講義内容・運営については、ほぼ全員から適当とする意見が出たが、音声関係は貴重な企画であったとするのに対し、語法語彙関係は実用かつ有益という大多数の評価のほかに、もう一步先まで踏み込んでほしい、日本人講師の語法講座も必要等の少数意見があった。総じて、居ながらにして中国の先生方のすばらしい講義が聞けた、という感想が多かった。費用負担についてはおおむね適当との答えを得たが、高い2名、安い3名もあった。実は30名で採算を計っていたため、今回は赤字、参加者には後日会計報告を予定している。講師との懇談や参加者同士の交流の場が不十分との批判は、事務局内でもせめて自己紹介の場がほしかった、という声があり反省しているが、今回は聴講に的をしばった企画で、主催者に経験交流の場という認識がなかったことが、不満を残すことになった。経験交流を主体にした企画は日本人講師を中心に開くつもりである。

全国中国語教育協議会準備会 会報《ニューズレター》編集・発行

(事務局)〒156 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中国文学研究室内 全国中国語教育協議会

【暫定運営委員】(50音順) 荒屋勤(大東文化大学) 今西凱夫(日本大学) 榎本英雄(明治学院大学) 大河内康憲(大阪外国語大学) 桑山哲郎(関西高校) 輿水優(日本大学)(代表) 小寺研(大東文化大学第一高校) 中野貞弘(兵庫県立神戸商業高校) 中野達(國學院大学) 西川優子(中国語教育研究会) 平井勝利(名古屋大学) 吉田隆司(日中学院)

全国中国語教育協議会準備会(ニューズレター)第3号

P. 4